

「聖週間のミサ、そして復活祭の公開ミサ中止について、思う事」

清川 泰司 神父

新型コロナウイルスの影響で、4月末までの公開ミサは中止になりました。これによって聖週間のミサ、そして復活祭が中止となりました。残念に思います。しかし、この中止は人の生命を守るためです。しかも、すべての人の生命を守る事です(世界各地の司教は、状況に合わせ公開ミサを中止している！)。

当初、大阪教区は、聖木曜日からの公開ミサ再開を決定しました。しかし、この新型コロナウイルスが猛威を振るう中での公開ミサ再開は、困難な状況でした。教会は、「三つの密」(『換気の悪い密閉空間』『多くの人が密集』『近距離での密接した会話』)の条件がそろった場です。そして、大阪教区から出された「注意事項」に不備を感じ、この件について楽観的ではない医師の意見を聞きながら、教区のミサ再開の要請に従う方向で進めてきました。しかし、途中で、それをクリアすることが不可能だという事に気づきました。それは、京都教区が4月中の公開ミサを中止していたことからでした。実際、京都教区の信徒から高槻でのミサ参加の問い合わせがあり、不特定多数の方がミサに訪れ、收拾がつかなくなることを危惧していました。この点で、前田大司教が4月中の公開ミサ中止を決断した事に、安堵しました。

私が、現状の中で「公開ミサ」を再開する事で最も危惧する点は、医療崩壊の一因となることです。知り合いの医師の中には、現在、ギリギリの状態にきていると話す方もおられます。そして、イタリアでは、死者数が15,000人を超えた現実があります(4月5日現在:世界の死者総数6万人を超える)。その死者の中に医療従事者が多数含まれており、司祭も少なくとも70名以上の方が死に至っています。その大きな要因は、医療崩壊です。イタリアの場合、医療崩壊により、司祭の中には、酸素吸入器不足により治療にあずかれず死にゆく人々に「終油の秘跡」を授け、また、葬儀に関わり、罹患し、死に至った方もいる事を想像します。この悲劇から何を学ぶのか、それを警鐘と受け止めるべきだと考えています。医療が崩壊した中、新型コロナウイルスの感染者の臨終に立ち会い、死に至った司祭に敬意を払います。しかし、私は、その死を短絡的に美化することは、福音の精神に叶っていないと感じるので、美化することで問題をすりかえ、本来の福音の精神を見えなくする要素があるからです(マタイ福音書23:29-32参照)。今、日本は、かろうじて医療が崩壊に至っていません。帰天された司祭の死を生かすことは、美化する事ではなく、その原因を直視し、未来に生かすことです。そして、今、考える事は、医療崩壊を加速させず、可能な限り人の生命を守る事に協力する事だと思うのです。

私自身、聖週間、復活祭は公開ミサではなくても、下記の祈りの意向をもって、ミサ、朝晩の祈りをささげていきます。皆さんも、不安の中でも、下記の意向を参考に神への祈りをささげて下されば、心強いものがあります。このウィルスへの対策は、自分の生命を大切にす事で、他者の生命を大切にす事になります。そして、人と人を分断する情報に振り回されず、祈りを通して信仰による「いのち」(人類の救いを諦めない神の永遠なるいのち=キリストに繋がるいのち=愛し合ういのち)を保つ事です。いつか特効薬が発見され、この状況から解放され、教訓を得て新たにされ、皆さんとともに「いのち」響き合うミサをささげる日を楽しみにしています。しばらくの間、祈りの中で忍耐しましょう！

(祈りの意向)

- ・様々な要因により、不安の中にあるすべての方々の為
- ・このウィルスの影響で亡くなられた方々の為
- ・病床にあって苦しんでいる方々、そして、そのご家族の為
- ・献身的に働いている医療従事者の方々の為
- ・対策を講じる立場ある人々が、利害に囚われず人の生命を守る、正しい判断をしていただく為
- ・この状況の中、人々が正しい識別により賢明な生き方(福音)に導かれる為